

# 千代田区版「人生会議」普及・啓発プログラムの展開と評価

— 共立女子大学看護学部・IKILU を考える会・千代田区社会福祉協議会 —

## 目的

人生の最期までその人らしく過ごすため、人生の最終段階に望む治療・ケア・生活について、本人と家族など大切な人と話し合い共有するプロセスである、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の重要性が謳われている。厚生労働省では、その愛称を「人生会議」と定め、普及・啓発を推進している。しかしながら、健康なうちから取り組む ACP への取り組みは未だ低迷している。

とりわけ千代田区では、高度急性期、急性期病床が多いことから、医療職と早期から継続的なコミュニケーションが取りづらいことに加えて、家族と疎遠な人が多いという特性があることから、人生会議の普及には、話し合いのきっかけづくりに焦点化した普及・啓発プログラム開発が必要と考えられる。

そこで本研究では、健康なうちから行う人生会議を動機づけ、話し合いのきっかけとなる普及・啓発プログラム開発を行い、実施、評価を行うことを目的とした。

## 研究内容

### 1. 人生会議トランプの開発

健康なうちから行う人生会議のきっかけとなる、家族で楽しめるゲーム形式の媒体として、人生会議トランプの開発を行った。人生会議トランプとは、トランプカード 1 枚 1 枚に、人生会議のきっかけとなる「お題」や、お題に関する「ひと言メモ」を記載したもので、神経衰弱やババ抜きに話しの要素を付加したものである（図 1）。

人生会議トランプのお題やひと言メモのコンテンツ検討にあたっては、千代田区住民と保健医療福祉職者を対象とした Web 調査を実施し、家族と話し合っていること、家族に聞いておきたいこと、専門職の立場から話し合っておいて欲しいこと、などの意見を収集し、アイテムプールの抽出を行った。その後、千代田区社会福祉協議会職員、IKILU を考える会メンバーと共立女子大学看護学部の学生、教員の計 14 名が参加したワークショップを開催して、コンテンツの検討を行った。



図 1 人生会議トランプ

### 2. 人生会議普及・啓発プログラムの実施と評価

Web 調査において高い関心が示された、「終末期医療」「認知症」「お金」をテーマとした講話と、人生会議トランプの体験会を組み合わせたプログラムをオンライン開催し（2022 年 1 月 22 日）、千代田区住民、在学者（大学生）、在勤者、計 31 名と、共催機関の関係者 14 名が参加した。

参加者アンケートの結果（図 2）から、本プログラムは、健康なうちから行う人生会議への理解を深め、取り組む意欲を高める効果を有することが示された。

「人生会議」普及・啓発プログラムの効果

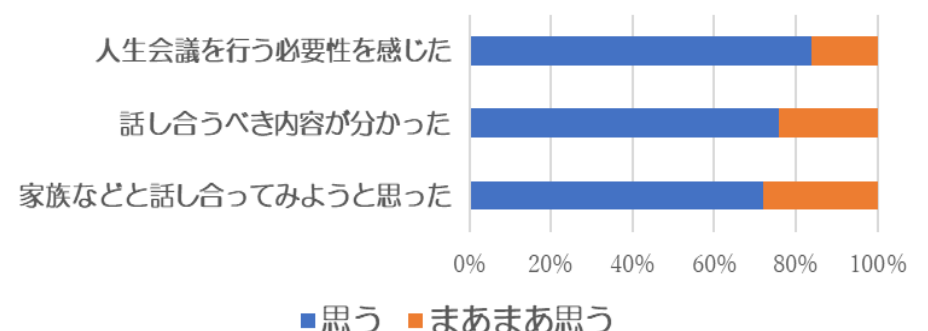


図 2 プログラム参加者アンケートの結果 (N=25)

### 3. 人生会議トランプの評価

上記プログラムの参加者のうち希望者と機縁法にてリクルートした対象者の計 28 名に、人生会議トランプを送付し、家族などとトランプゲームを行ってもらい、人生会議トランプの評価を行った。結果、回答者（20 名）のうち 90% から好意的な反応が得られた。また、トランプの「お題」や、形状等について、多くの意見が寄せられ、今後の改良に資するデータが得られた。

## まとめ

本事業において開発した、「人生会議トランプ」並びに「人生会議普及・啓発プログラム」は、健康なうちから行う人生会議を動機づけ、きっかけとなる効果を有すると考えられた。今後は、人生会議トランプの改良を行いつつ、これを活用した普及・啓発活動を行っていく予定である。